

N8580-04 インターフェイス・キットの使用法

1. Windows 2000 標準 UPS サービスを使用する場合

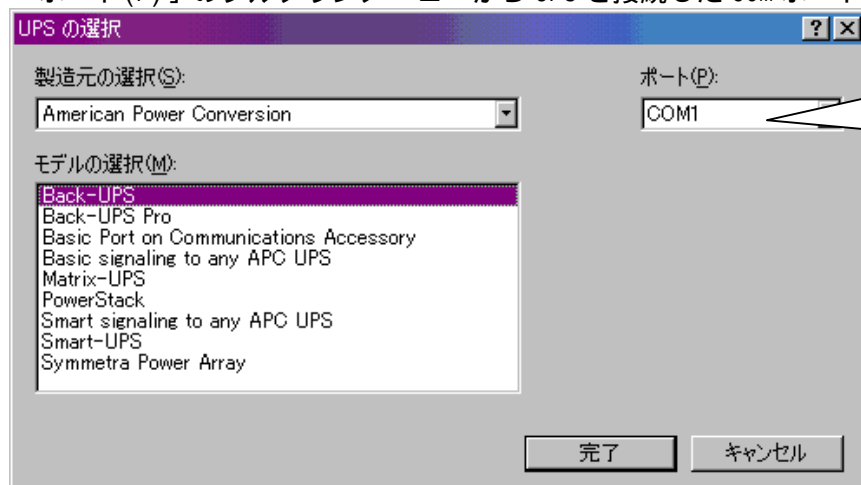
【Windows2000 の設定】

「スタート」 「設定(S)」 「コントロールパネル(C)」をクリックします。「コントロールパネル」のフォルダが表示されます。

「電源オプション」をダブルクリックします。「電源オプションのプロパティ」のダイアログボックスが表示されますので「UPS」のタブを選択すると、以下のような UPS のダイアログボックスが表示されます。



詳細の欄の「選択(S)」ボタンをクリックすると「UPS の選択」ダイアログボックスが表示されるので、「ポート(P)」のプルダウンメニューから UPS を接続した COM ポートを選択してください。



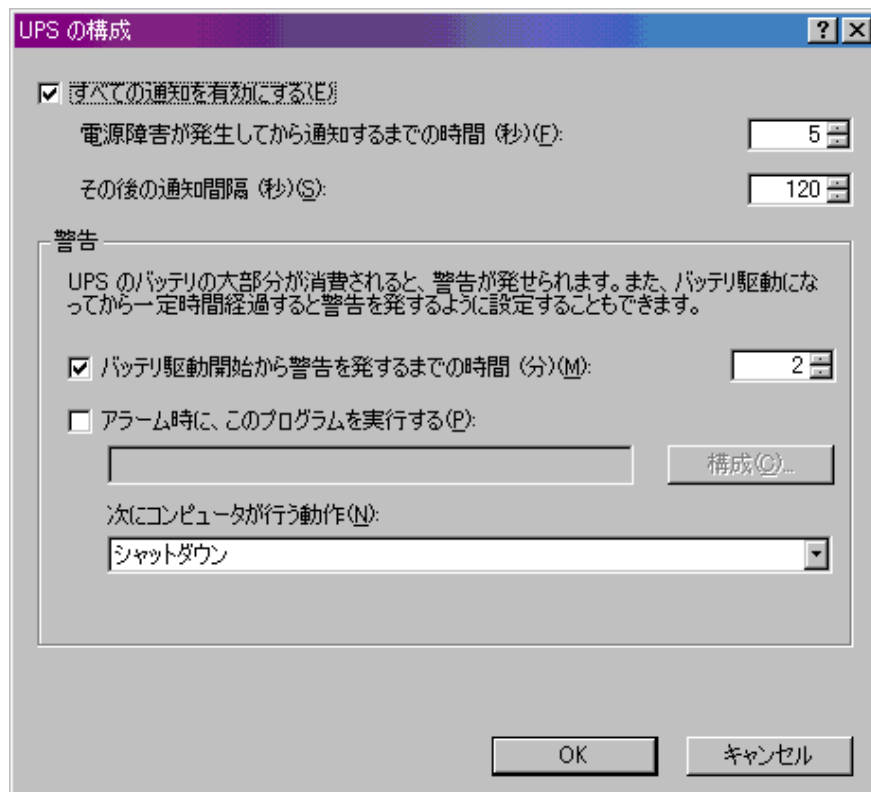
UPS が接続されている
COM ポートを選択

次に「製造元の選択(S)」のプルダウンメニューから「American Power Conversion」を選択すると、「モデルの選択(M)」に UPS の機種が表示されるので「Back-UPS」を選択し、「完了」ボタンをクリックしてください。

以下の電源オプションのプロパティのUPS の表示に戻ります。詳細の欄の「製造元」が「American Power Conversion」、「モデル」が「Back-UPS」であることを確認したら、「構成 (C)」ボタンをクリックしてください。



「UPS の構成」ダイアログボックスが表示されるので、以下の通り設定を行ってください。



設定が終わりましたら「OK」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。状態の欄の「現在の電源」が「AC 電源」になっていることを確認してください。



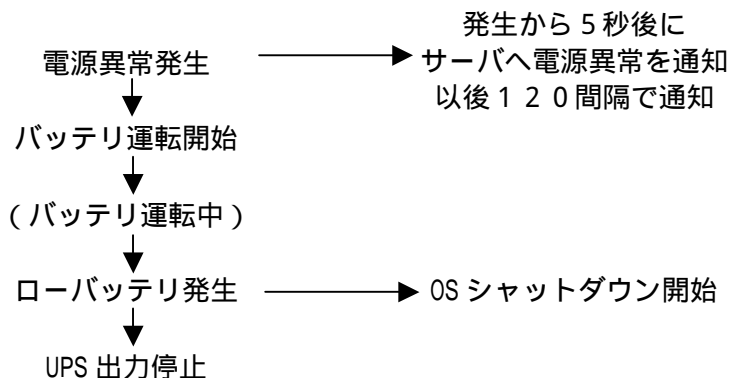
状態の欄の表示がグレーアウトしていた場合は、コントロールパネルの「管理ツール」をダブルクリックしフォルダを開きます。

「サービス」をダブルクリックし、ダイアログボックスを開きます。

Uninterruptible Power Supply を選び、「開始」ボタンをクリックして UPS サービスを起動してください。

- * サービスのダイアログボックスの UPS の状態が「開始」に、スタートアップが「自動」になっていることを確認してください。

注意 : 本設定とケーブルを使用して電源異常が発生した場合は、以下の通りの動作となります。

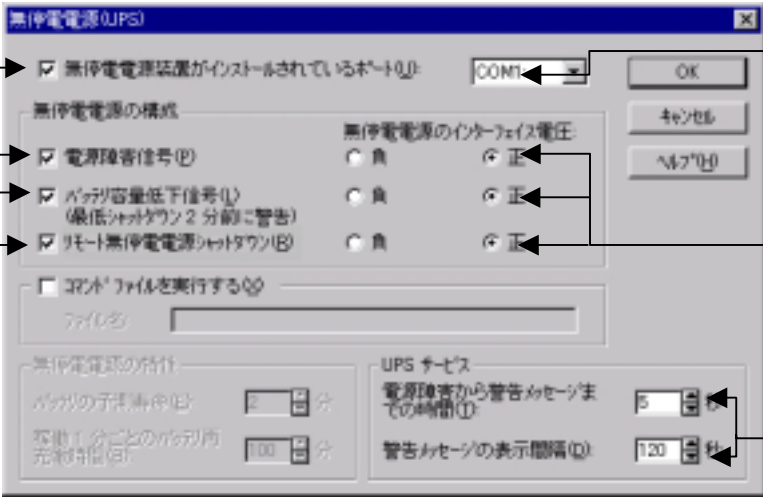


UPS 出力停止後に電源が復電をしても、UPS は自動で再起動しません

2 . Windows NT 標準 UPS サービスを使用する場合

(1) Windows NT コントロールパネル内で  をダブルクリックする。

(2) 下記のようなダイアログボックスが表示されたら、UPS に関する設定を ~ の項目にしたがって設定する。



このチェックボックスを ON にする。

3 つのチェックボックスをすべて ON にする。

UPS が接続されているシリアルポートを指定する。

3 つ全てを "正" にする。

この 2 つの項目はそのままにする。

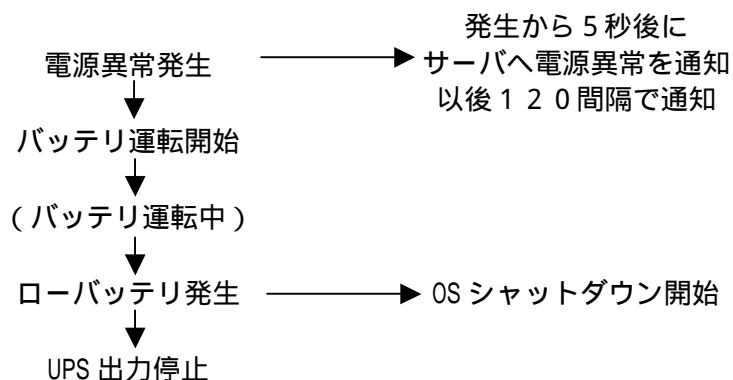
(3) 設定後「OK」をクリックする。

(4) Windows NT のコントロールパネル内のサービスを起動し、UPS サービスが起動されていることを確認する。起動されていない場合は、起動させる。

(5) 同様に UPS サービスのスタートアップが「自動」になっていることを確認する。「自動」に設定されていない場合は、「自動」に設定する。

以上で、設定は終了です。

注意 : 本設定とケーブルを使用して電源異常が発生した場合は、以下の通りの動作となります。



UPS 出力停止後に電源が復電をしても、UPS は自動で再起動しませんので、手動で UPS を起動してください。

3 . N e t w a r e 標準 UPS モジュールを使用する場合

・ Netware3.12J/3.2J で使用する場合

(1) NOVELLのホームページ (<http://support-j.novell.co.jp/misc/patlst.htm>) より以下のパッチをダウンロードする。

312PTxJ .EXE(OS パッチモジュール。"x"は最新のモジュール番号を示します。)
LIBUPxJ .EXE(CLIB.NLM 関連のアップデートモジュール。"x"は最新のモジュール番号を示します。)
UPSJ1.EXE (UPS モニタ・アップデートモジュール)

(2) (1) 項でダウンロードした3つのパッチを解凍して、 の順序で、それぞれの手順に従い適用する。

(3) AUTOEXEC.NCF の最終行に以下の記述を追記する。

```
Load AIO
Load AIOCOMX
Load UPS_AIO
```

以上で設定は終了です。

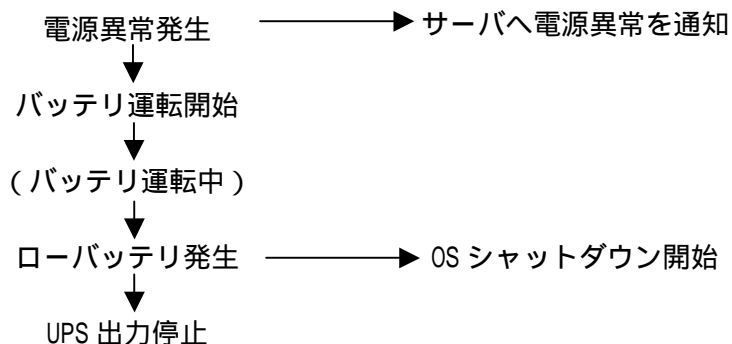
・ Netware4.11J/ Intranetware /4.12J/4.2J/5 で使用する場合

(1) AUTOEXEC.NCF に以下の記述を追記する。

```
Load AIO
Load AIOCOMX
Load UPS_AIO
```

以上で設定は終了です。

注意 : 本設定とケーブルを使用して電源異常が発生した場合は、以下の通りの動作となります。



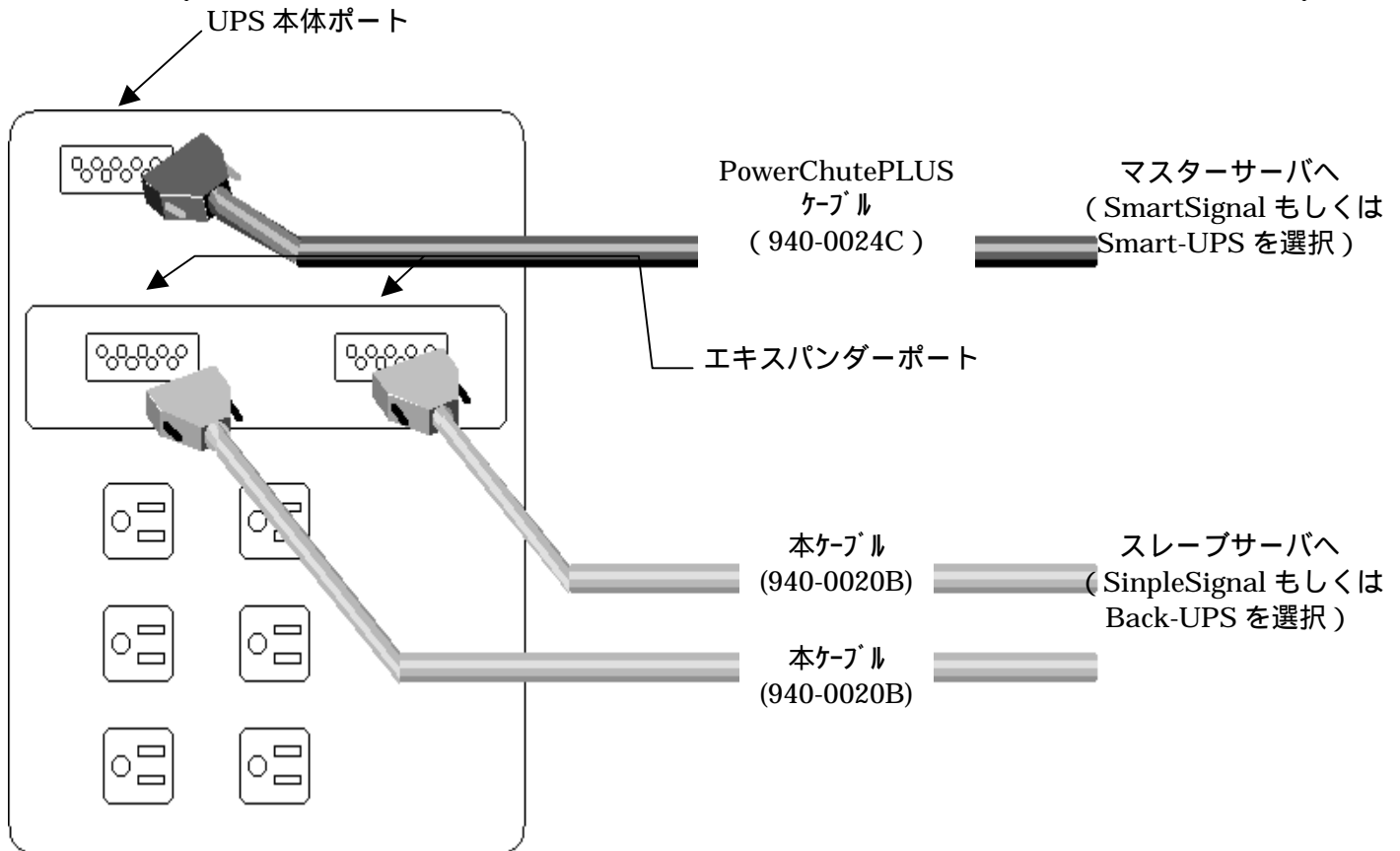
UPS 出力停止後に電源が復電をしても、UPS は自動で再起動しませんので、手動でUPS を起動してください。

4 . N8180-14 /-41UPS インタフェース拡張ボード/BOX を使用する場合

注意： N8580-14/-41 UPS インタフェース拡張ボード/BOX を使用する場合、本ケーブル（ケーブル型番：940-0020B）はこの拡張ボードについているポートに接続してください。本ケーブルで接続されたサーバはスレーブサーバとなります。

UPS 本体のポートには PowerChutePLUS 用ケーブル（ケーブル型番：940-0024C）を使用してください。UPS 本体のポートに接続されたサーバはマスターサーバとして動作します。

・接続図（インターフェース拡張ボードの例、BOX の接続例は BOX の取り扱い説明書参照）



- (1) 本ケーブルを接続するサーバの OS にあった PowerChutePLUS をインストールする。
- (2) インストールの際に、選択する UPS もしくは信号を必ず、BACK-UPS もしくは SimpleSignal (シンプルシグナル) を使用する。

注：スレーブサーバをコンフォームモードで使用する場合

スレーブサーバをコンフォームモードで使用する場合は、スレーブサーバにインストールしている PowerChutePLUS のコンフィグレーションファイル(インストールディレクトリ内の pwrchute.ini)に以下の記述を追加して下さい。

[ShareUPS]

ConfirmedModeEnabled = Yes

半角スペース

この記述は、本製品をタイマーモードで使用される場合は必要ありません。尚、PowerChutePLUS コンフィグレーションファイルを変更した場合、UPS サービスの再起動が必要です。またコンフィグレーションファイル編集前に、変更前のファイルのバックアップを作成しておくことをお勧めいたします。